

DX への取り組み

推進体制

DX への取り組みが企業全体の変革を促進し成果に結びつくよう、経営層が戦略的な方向性を決定し、組織全体で推進する体制を構築します。具体的には、専任の推進チームの設置、取り組みごとに最適な活動形態による運用、活動を支える DX 人材の育成、推進体制の整備状況や活動成果の指標管理などです。

活動組織・スキーム

2022 年 7 月に IT 本部を新設し、専任の IT 担当執行役員を配置しています。また、既存の情報システム部門を傘下に加えるとともに、IT を積極的に活用して全社的な IT 化を推進する IT 企画室を設置しています。IT 担当執行役員は、当社の経営戦略を実現するための IT 戦略とロードマップを取りまとめ、優先的に取り組むべきプロジェクトの見極めや投資計画の検証について、長期的な視点で経営層と確認を行い、全社へ展開する重要な役割として機能しています。

なお、取り組みごとの要件に合わせ、プロジェクト、クロスファンクショナルチーム、定常組織での活動など、柔軟に推進体制を組み、遂行します。

人材育成

教育を主管する組織である MLI（マブチ・ラーニング・インスティテュート）を推進主体として、本社及びグループ会社を対象に、グローバルに活躍できる経営人材や専門性を有する人材の継続的な育成に取り組んでいます。

従来の教育・研修制度に加え、社員の IT リテラシー向上施策として、IT パスポート取得を推奨し、全社展開しています。対象となる本社正社員の約 700 名のうち、既に約 500 名が取得しています。また、高度 IT 人材の確保・定着に向け、2025 年には今後強化すべき IT 領域の資格を体系的に整理・拡充し、新たな処遇制度として「IT 手当」を導入しました。高度な専門性や実務経験を有する人材に対し、スキルに応じた手当を支給することで、市場競争力のある報酬水準を実現しています。本制度により、採用力の強化に加え、既存社員の成長意欲向上とキャリア形成支援を促進し、全社の IT 力強化につなげています。

推進体制の整備状況や活動成果の管理

取り組み中の DX テーマに適した管理指標を設け、推進体制の整備や活動の進捗及び成果の評価を行っています。現在の主な DX テーマと管理指標は以下のとおりです。

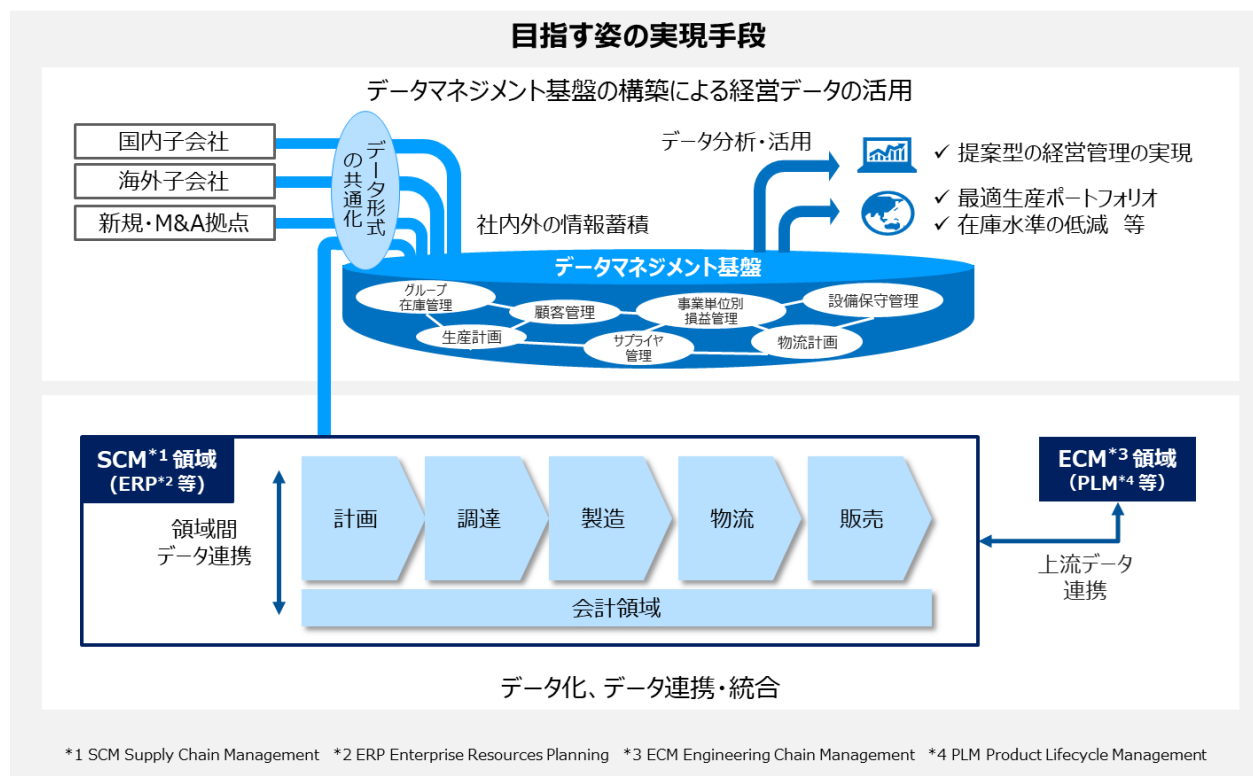
DX テーマ	管理指標
① グローバル情報に基づくタイムリーで高精度な経営判断の実現	AI やデータを活用した業務改革プロジェクト数
② 業務の IT 化による生産性向上に向けた取り組み	自動化・効率化を実現した業務数
③ 社員の DX リテラシー向上	セキュリティ教育数／訓練実施数 IT パスポート資格取得率

具体的な取り組み

DX テーマ① グローバル情報に基づくタイムリーで高精度な経営判断の実現

データマネジメント基盤の整備を行い、経営判断から実行・改善（PDCA）までの高速化の実現を目指します。

【主な活動】データマネジメント基盤構築、データ活用 AI 導入、グループ経営基盤強化（会計領域）、ERP 刷新等



<活動事例の詳細>

データマネジメント基盤構築：

ERP、PLM 等に点在しているデータを、データマネジメント基盤に統合します。従来は、事業全体あるいは全社的な分析のため各システムのデータを手作業で結合・加工するなど時間と工数を費やしていましたが、今後は統合されたデータを経営・事業・部門の KPI 管理に活用し、ニーズに応じた分類やドリルダウンが可能な BI ダッシュボード等も整備します。また、統合されたデータは、予測 AI の入力データとしても重要となります。

グループ経営基盤強化（会計領域）：

会社の成長や事業拡大に向けて、グループ会社全体のデータ連携・統合を通じた会計領域のプロセス変革により、決算早期化や原価・売価・利益計画の管理体制強化を目指します。

ERP 刷新：

グループ全体で運用する ERP については、M&A による新たな事業領域の拡大やグローバル経営高度化に対応するため、ERP の刷新に取り組んでいます。2026 年 3 月にはプロジェクトを正式に立ち上げ、経営基盤の強化と持続的な成長を支える IT 基盤の構築を進めています。

<IT システム環境>

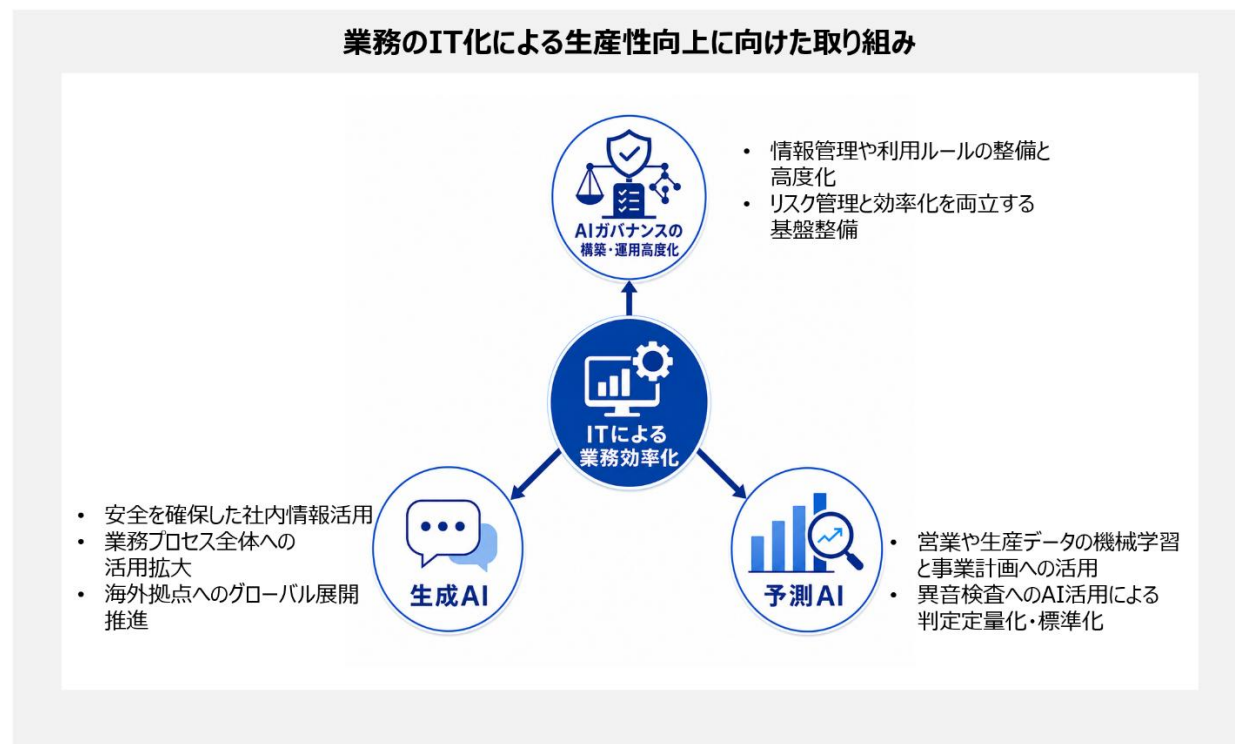
データマネジメント基盤として、ETL（Extract Transform Load）によるデータ収集、データレイク・データウェアハウス・データマートによるデータ蓄積、BI・AI によるデータ活用といった構成を新たに構築します。

一方、それぞれのシステムにおいても、IoT の活用等による取り込みデータの拡充を計画しています。

DX テーマ② 業務の IT 化による生産性向上に向けた取り組み

デジタル化を中心とした業務の IT 化により、間接業務の効率化と生産性向上を図ります。

【主な活動】生成 AI・予測 AI の導入、設備分野への AI 導入、AI ガバナンスの構築・運用高度化など



<活動事例の詳細>

生成 AI :

大規模言語モデルは、セキュアに社内情報を学習し活用できるサービスが選択可能になったことを受け、ユースケースを検証し、導入効果を確認した上で、社内展開しています。

生成 AI の導入以降、国内を中心に社員一人ひとりの業務活用を推進してきました。2026 年はその活用を個別業務にとどめず、業務プロセス全体へ拡大し、生産性向上と付加価値創出を図っています。さらに、海外拠点においても、地域特性を踏まえた展開を推進し、国内で蓄積したノウハウを活用することで、グローバルでの業務プロセスの高度化を推進しています。

予測 AI の導入 :

営業活動や生産現場の膨大なデータを機械学習させ、事業計画や品質管理へフィードバックが可能なモデルを構築中です。

また、生産技術の高度化に向け、製造工程への AI 活用を推進しています。異音検査では、熟練者の感覚知に依存していた良否判定を AI により定量化し、品質基準の標準化と属人性の解消に取り組んでいます。加工工程においても、最適条件の探索を推進し、現場で蓄積した知見と AI 技術を融合させ、品質向上と生産性向上の両立を進めています。

AI ガバナンスの構築・運用高度化 :

AI の活用拡大に伴い、情報管理や意思決定の信頼性確保が一層重要となる中、当社では入力情報管理や利用ルール整備等、AI ガバナンスの構築・運用高度化を推進しています。AI 活用に伴うリスクを適切に管理しながら、業務効率化と信頼性を両立した生成 AI 活用基盤の整備を進めています。

<IT システム環境>

業務上必要な IT ツールは、メールや文書作成ツールだけでなく、生成 AI 等の最先端ツールを含め、IT 利用基準に基づき、IT 部門から全社員に適切な権限を付与しています。

また、ゼロトラストの考え方に基づき、認証・端末管理・アクセス制御を含むセキュリティ基盤の強化を継続的に推進しています。既存のセキュアなクライアント環境とも連携しながら、利用環境に依存しない安全な業務基盤を整備し、グループ全体で一貫したセキュリティレベルの確保に取り組んでいます。

DX テーマ③ 社員の DX リテラシー向上

DX への取り組みを促進させるため、従来から整備していた当社の教育・研修制度に加えてリテラシー向上策を実施することで、限定した人材の育成のみならず、全社的な学習機運の醸成を図っています。

【主な活動】各種 IT ツールの活用促進に向けた教育、情報セキュリティに関する教育・訓練、全社員の IT パスポート資格取得奨励など

情報セキュリティ対策

当社は、DX への取り組みにより、IT 及びデータを最大限に活用した業務の効率化や顧客への提供価値向上を目指していますが、一方で、情報セキュリティを重視し、グループ全体の情報ネットワークに対するセキュリティ強化にも取り組んでいます。最新のセキュリティ技術やデータ保護策に代表されるハード面と、運用ルールの最適化やセキュリティ意識の向上によるソフト面の両面で、整備計画を立案し遂行しています。

また、情報セキュリティ対策は、当社のリスク管理体制の枠組みの中で運用しており、リスクマネジメント委員会を通じて、平時及び緊急時の組織横断的な活動を可能としています。

なお、これらの情報セキュリティ対策や情報システム、あるいは情報資産そのものを対象とするアセスメントや内部監査・外部監査も導入しており、信頼性の高い制度・プロセスとして、継続的な改善を行う仕組みを構築しています。